

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム プランタンⅣ	評価実施年月日	平成20年12月21日
評価実施構成員氏名	久慈 将裕(介護支援専門員)、野原 雪美(介護主任)、佐藤 裕美(介護員)		
記録者氏名	久慈 将裕	記録年月日	平成20年12月25日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念に関しては、個別ケアを念頭に置きご利用者様にゆったりと家として過ごしていただくことを掲げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>その人がその人らしく生活できるように援助の方向性を位置づけ実践している。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議、施設主催のイベント、散歩時の挨拶など、地域に溶け込める様に配慮している。</p>	○	<p>運営推進会議については今年度は管理者の交代もありあまり開催できなかったため、今後は概ね2ヶ月に一回できる様にしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時の挨拶は常に心がけています。</p>	○	<p>より地域に密着したホームとなれる様に、地域住人が参加できるお祭り等を企画していきたいです。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に入会し、地域の落ち葉清掃に参加しております。</p>	○	<p>町内会の行事等の案内が来た時には、必ず参加することによって、地域に根ざした、ホーム作りをしていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内会長さんと話をする中で、地域に一人暮らし・夫婦のみの老人世帯があり、制度のこと等で迷うことがあれば気軽に相談に来てくださいと、お話しております。</p>	○	<p>もっと地域の方々に認知していただき、親しみやすいホームを目指したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価および外部評価の客観的な視点も考慮し、差異のある部分を吟味し改善をしていきたいです。</p>	○	特に外部評価を今後の運営に活かして生きたいです。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>地域・ご利用者様ご家族・ご利用者様・学識者に集まっていたいただいた会議にて施設の活動報告を助言を頂いております。</p>	○	今後はおおむね2ヶ月に一回の開催をし、地域包括支援センターの方にも参加要請をしていきたいです。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括支援センターの方の意見を聞くと共に、生活保護のご利用者様も数名入居されているので、旭川市の保護課の方にも協力をしていただき、介護高齢課の調査にも協力しております。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>様々な研修・セミナーに参加しており、知識や理解を深めていますが、実際に活用した事例はありません。</p>	○	ご利用者様の人権の権利擁護の為に今後さらに知識や情報の収集に努めていきたいです。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待については研修・セミナー・文献等で知識を収集し、職員にも徹底していただき、防止に日々努めております。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>要点を絞っての説明を行っており、全部の説明までには至ってはいないのが現状ですが、重要事項は理解していただいています。また、不明な点があればその都度説明をしております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今のところ目立ったものはありませんが、随時クレーム・苦情・相談を受け付けております。改善の必要がある意見が寄せられた時は、直ちに修正・改善していきたくと考えております。	○	細かな意見から無下に扱う事無く反映していきたくです。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご利用者様に変化等が見られたときには、その都度状態を、ご家族が面会に来られた時や、電話、手紙等で伝えております。預かり金に関しても毎月出納帳のコピーと領収書を送付しております。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	随時クレーム・苦情・意見・相談を受け付けており、その都度真摯に受け止め考慮し改善の必要があれば直ちに行っております。	○	ご家族との信頼関係構築に今後も努め、様々な意見を取り入れていきたいです。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的なミーティングを行い職員間の意見交換を行い、反映できるものに関しては行っております。	○	さらに話し合いの場を設けていきたいと考えております。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	今後、ご利用者様にとってもより良い配置があれば、常に前向きに実践していきたくと思います。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動・離職がないよう努めてはいますが、やむを得ない場合もありました。新しい職員には、ご利用者様にご迷惑がかからない様に、的確なご利用者様の情報を得ていただいております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修・セミナーの案内や、介護高齢課よりの情報をその都度回覧しております。また、必要に応じて研修等に参加もしていただいております。日々の仕事で工夫を加え成長を促しております。</p>	○	<p>今後は育成計画等を立て、職員の育成に努めていきたいです。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>管理者・介護主任等は研修等に参加する機会もあり、交流もありますが、他の職員はなかなか交流の機会がないのが現状である。</p>	○	<p>積極的に同業者が集まる研修等に参加をしていく様促していきたいです。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>管理者の交代もあり、雰囲気は変わったと思われる。ご利用者様に対しては緊張感をもって対応していただき、それ以外の職員同士の交流等は円滑にいく様配慮している。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>定期的評価を行い、それを色々な面から職員に反映していくことにより向上心を持って働いていただいています。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>アセスメントに力を入れ、相談・利用が円滑に行くよう努めている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>同上</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人には可能であれば、見学に来所していただいてから、入所を決めていただくよう勧めています。ご家族様にも、他の施設等の見学を勧め、選択肢を持った上で選んでいただける様に配慮しております。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	信頼関係の重要性を考え、常にご利用者様・ご家族様に対応し、馴染みのあるグループホームをめざしております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	グループホームはご利用者様の家と考え、家庭的な雰囲気も大切にし、ご利用者様は人生の先輩である事から、尊敬の念も持って接していきたいと常に考えております。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	イベントや通院等御家族の方と一緒にご利用者様を支えていきたいと考えているが、ご家族様が無理なく支援していただける様に努めています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族様が会う機会が多くなる様促したり、ご家族が来所しやすい雰囲気のホームを目指しております。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	可能な限り、思い出のあるもの、行いたい事に対しては可能な限り反映していきたいです。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	人間同士で合う合わない等の相性もありますが、集団生活が維持できるように配慮しています。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何らかの理由で退所となっても、必要であれば、受け入れ先の情報を提供する等、継続した援助を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活暦・家族関係・言動・行動から、本人の望む姿を想定して援助を行っております。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員との関係性が深まるにつれ、聴ける話しも増えてきているので、その都度、本人像を修正しています。	○	コミュニケーションをより深め、良い介護に努めていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者様の日々の状態変化を把握し、援助がご本人様の意に反しない様に配慮しております。	○	ご利用者様を画一的に捉えるのではなく、その日のバイタルや体調等、日々変化するご本人様の思いを大切にしたいです。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成担当者が中心となり、自分のご利用者様と関わる中ででの情報・職員からの情報・ご家族からの情報を総合して計画を立てています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態に即して計画を細かく変更できると良いのだが、なかなか現状に完全にはついていけないのが現状である。	○	職員全員が、ケアプランを理解・実践できるようにしていきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記入の情報が断片的であり、介護記録等を有効に活用しきれていない部分があります。	○	介護記録等の様式を検討するなど、必要な情報を記入しやすいものを考えていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	週1回の柔道整復師による施術を無料で行ってます。また定期受診には職員同行し通院介助しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	協力・支援できるものを模索しています。	○	ご利用者様の生活の質の向上につながるものを模索していきたいです。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご利用者様の生活の質を高めるサービスがあるのならば積極的に活用していきたいが、情報が少なく収集に努めていく必要をかんじております。	○	様々なネットワークを構築していきたいです。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは連携をとりながらサービスを行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	各ご利用者様に主治医がおり、定期受診し、支援を受け、健康管理に努めております。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	症状や、状態によって専門医を受診しております。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所に看護職員は配置されていませんが、提携病院、グループ内の看護師に常に相談し手対応しております。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ケースワーカーと連絡を密にし、早期退院に向け援助しております。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に終末ケアについての確認は行っていないが、終末ケアについての説明を文章化したものを製作中です。	○	人生の最後をグループホームで迎える方も増えてくると思われるので、ご本人・ご家族が満足ができる様な、体制を整備していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と連携し、出来る範囲内で看取りを行っております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	積極的に情報提供を行い、早く新しい環境になれる様配慮しております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ご利用者様一人ひとりを尊重するように対応し、秘密保持は徹底しております。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	認知症になっても、自己選択を持って自分らしい生活を少しでも実現できるように配慮しております。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりが思う生活をできるように職員全員で団結し努めております。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	服装は季節に合ったものを、ご本人様が選べる様に可能な限り援助しております。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備に関しては、もやしの芽を取ったり、テーブルを拭いてもらったり、一緒にするよう心がけております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒・タバコに関しては許可はしておりません。Aユニットにはアルコール依存症の既往歴がある方がいるのと、火の取り扱いに危険がある理由からです。飲み物・おやつに関してはご本人様の健康に支障がない限り楽しんでいただいております。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄表を個別に記録し排泄パターンの把握に努めております。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	不本意ではありますが、曜日・時間帯を決め入浴していただいております。ご本人様の入浴したい時に入浴できればと思うのですが、なかなか現実的には実現できずに居ます。	○	今後入浴の自由度を高めていける様なアイデアを出していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間でも起きたいという希望があれば起きていただき、話を聴くように対応しております。毎朝・睡眠の状態については職員・ご本人様から除法を収集しております。日中であっても疲れた様子が見られたり、希望があれば休んでいただいております。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者様がその人らしく生活できる様情報収集を行うと共に、その人らしさとはどの様なものか追及していき、関係者が共通のご利用者様像を持てるよう体制を整えていきたいです。	○	残存能力を活用できて、生きがいが見つけられるように援助していきたいです。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つ事により、精神状態が安定するという事はあると考えるので、預かり金とは別にご利用者様自身で所持されている方もいます。外に散歩に出た時はそのお金を使用して買い物されることもあります。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	訴えがあった時は、可能な限りご本人の希望に沿うように配慮しております。	○	できるだけご本人の希望を実現していきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	毎月、何らかのイベントを行っている。その中で、ご家族と共に焼き肉を楽しむ等の企画は随時行っています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者様の状態にもよりますが、ご本人の訴えがあり、職員が必要と判断した時は、電話を掛けています。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご利用者様とご家族によって、関係性は異なるものの、ご本人の最新情報を報告して、今現在の状態を知ってもらおうと共に、家族・知人と一緒に時間を過ごせる様になっています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会での毎月の話し合いを勧めており、職員にも理解をしてもらう様努めております。	○	今後さらに身体拘束についての理解を深め、拘束をしない方法を模索していきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外から、階段、食堂までの間に3枚のドアがあり、ホームの場所が街中にあるため保安上、2枚目のドアが施錠しております。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	ご本人の状態を見極めたうえでの見守りを行い、危険の防止に努めております。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	認知の状態に合わせて、危険がない様配慮しております。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	様々なマニュアル、火災時の消防計画等を作成し、事前に備えております。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年に一回グループ全体で消防に依頼し、緊急時の対応についての講習を行っています。	○	今後はうちのホーム単体でも緊急時の対応についての講習を行いたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画については提出済みです。	○	避難訓練を年二回以上のペースで行っていききたいです。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ご本人の状態についての説明・起こりうる可能性のある事柄については説明を行っている。必要であれば、受診時に同席してもらい医師からの説明を受けています。	○	さらに機会を設け密にしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行い体調の管理を行っており、週二回以上の割合で看護師にも体調を観察していただいています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は、ご本人の状態を通院時に主治医に報告して、減量できるものに関しては減らすようにしております。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日、排尿・排便の回数を確認しており、水分補給にも気をつけております。排便間隔がある時は、処方された下剤で対応しております。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアは毎食後行っております。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を記録し、水分量の確認が必要な方は摂取量を記録しております。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルをグループ全体で作成中で、ノロウイルスの嘔吐物に対しての手順マニュアルについては作成済みである。	○	今後はさらに情報を集めマニュアル等を整備していきたいです。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器の洗浄には食洗機を使用し、まな板の消毒も行い配慮しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	夏には、花を飾り、ご利用者様が水をあげたり、季節感をかんじられるように配慮しております。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	現状でも配慮しているつもりですが、常に気を配っていきたいです。	○	より快適な生活環境が整えられる様に配慮していきたいです。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ご利用者様間でトラブルがない限りは、好きな場所で過ごしていただいております。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた馴染みのあるものを使うように配慮しております。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	排泄の後は、スプレーを使用し消臭したり、こまめに換気を行い温度を調節、新鮮な空気を感じられるようにしております。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	環境整備に気を配り、転倒のないよう配慮しております。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自立支援になるように、自分で出来る事は失敗することがあっても、していただいております。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場が広いので、ご利用者様、ご家族、町内会の方も招いて、焼き肉を行ったりしております。		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	③
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	②

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

・利用料が低料金設定であるのと、週1回の施術、交通の便が非常に良い建地になっております。